

笑顔で学ぶ

久留米市教育委員会発行
No. 4 (平成24年3月)

くるめっ子通信

「確かな学力」の育成

- ・「くるめ学」合同発表会
- ・少人数授業の実施など
- ・中学校説明会を開催
- ・読書で世界をひろげよう



4校が「くるめ学」の学習成果を発表

久留米市の文化や偉人を学ぶことで、郷土の魅力を再発見する「くるめ学」に取り組む市内の小中学校が11月末、久留米市役所のくるみホールで、学習成果の合同発表会を開きました。

荒木小5年2組は、市出身の「からくり儀右衛門」こと田中久重について調べ、千個の部品を一人で組み上げた万年時計や複雑な動きをする弓引き童子などの発明品について発表しました。

子どもたちは、「みんなも久留米をもっと好きになってほしい」「あきらめない気持ちを見習いたい」「大勢の前で発表できて自信がついた」などと目を輝かせていました。

「くるめ学」は児童生徒が郷土久留米に愛着と誇りを持つことを目的として、総合的な学習の時間を中心に、昨年度から市内全ての小中学校と特別支援学校で実施しています。身近なものを材料にして探究的な学習を行うことで、学習意欲の喚起や様々な知識を複合的に活用する能力の育成を図ります。

「確かな学力」の育成を目指して

「笑顔で学ぶくるめっ子」に向かって、第2期久留米市教育改革プランの具体的な目標に“「確かな学力」の育成”を掲げています。

未来の社会で自己の能力を発揮する基盤として、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を身につけた子どもを育てます。

また、障害のある子どもの自立や社会参加を目指して、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな教育を行えるよう、特別支援教育の充実・深化を図ります。

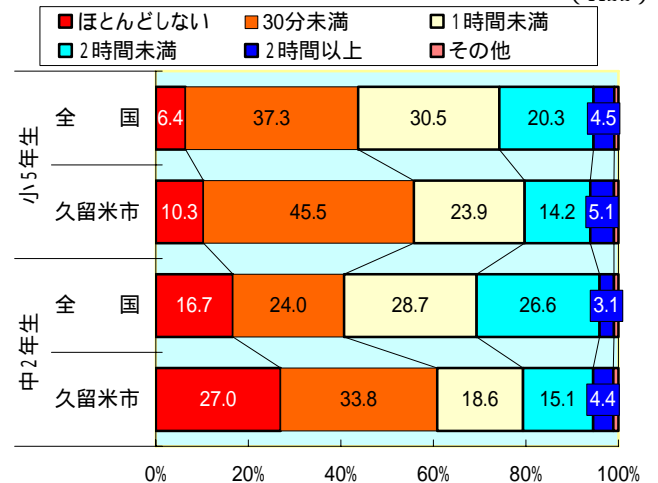
「確かな学力」の育成のために

《子どもたちの現状》

「確かな学力」を育成するために、各学校では、教職員が切磋琢磨しながら授業力を高める研修の充実や、個別指導・習熟度別指導等を通して「魅力的でわかりやすい授業」の実践が進められています。

また、本市の小学校5年生、中学校2年生の学校外での勉強時間は、「ほとんどしない」「30分未満」の割合が全国平均を大きく上回っています。(右図参照)このようななか、学校と家庭が連携しながら、子どもたちの自学自習の習慣を定着させることが大きな教育課題の一つとなっています。

学校の授業以外に1日にどれくらい勉強しますか (H22)



《各機関等が果たすべき役割》

家庭・地域の役割



家庭での基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る学習習慣を確立する。子どもの学力状況を把握し、よりよく学ぶための支援をする。身近な自然体験・社会体験などの中で知的好奇心・向上心を育むような場を演出する。人生の先輩として、大人になり社会に役立つことの大切さを伝える。

教師・学校の役割



授業の質の向上により、基礎的・基本的な知識・技能の習得や活用力の育成を図る。身につけた知識・技能の活用や、「くるめ学」をはじめとする総合的な学習の時間での探究的な学習活動で、思考力・判断力・表現力等を育成する。学習規律の確立やノートづくりの指導などを通じ、家庭と連携して学習習慣の確立を図る。子どもたちに自己の生き方について考えさせたり「学ぶ意義」をつかむような学習を展開する。子どもが落ち着いて学習に集中できる学習環境をつくる。個々の児童生徒の学力状況に応じた学習支援を行う。

行政施策の考え方



各学校の学力実態に応じた授業改善に向けた指導助言を行う。「くるめ学」等地域資源に配慮した、特色ある授業の構築への指導助言を行う。個に応じたきめ細かな指導を進めるための人的支援を行う。学校図書館の読書センター及び学習情報センターとしての機能の充実を図る。グローバル化を踏まえ、理科教育や外国語教育の充実を図る。

《取り組みの目標》

項目	現状	目標
平日に授業時間以外で「ほとんど勉強しない」と回答する割合	小5 10.3% 中2 27.0%	全国平均以下 (小5 6.4% 中2 16.7%)
全国学力調査で、全国平均以上となる問題(教科)分野	中学校国語Bのみ	小中学校の全教科
久留米市学力実態調査で目標に到達している(概ね理解している)子どもの割合	小5 国 60.2% 算 73.7% 中2 国 64.7% 数 46.7% 英 52.8%	全国平均以上 小5 国 66.4% 算 74.0% 中2 国 67.2% 数 54.8% 英 64.0%
個別の教育支援計画・指導計画の作成や活用	小中学校の作成率 平均 33%	作成率 100%

「確かな学力」の育成に向けた取り組み

子どもたちの達成感・充実感を大切にしながら、学力の定着をめざしています。

少人数授業の実施

子どもたちの学力向上と「わかった・できた」という達成感に向けて、小学校2、3年生と中学校1年生でクラスを分割して指導したり、複数の教員で教えたりしています。（1学級規模が35人を超える学校が対象）子どもたちからは、「進んで発表しようと思う」「分からないところを安心して尋ねられる」などの声が聞かれています。



外国語活動の充実



中学校で行われていたALT（外国語指導助手）派遣を小学校まで拡大し、外国語に親しみ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする子どもを育てる学習をしています。ALTと外国語を使ったコミュニケーションをしたり、外国の生活や文化の話の聞いたりすることで、「外国語を使って話したい」という子どもたちの声も聞かれています。

小学校6年生に、新入生説明会を開催

1月23日に市内全中学校で新入生説明会が開催されました。本年度は多くの中学校で、小学生が中学校の先生の授業を体験したり、小学校6年生と中学生と一緒に授業や部活動を行ったりしました。これらの取り組みは、新入生の進学への不安を軽減し、入学への期待を高めることに大変効果的でした。

北野中学校では、百人一首を活用した国語の授業で中学校1年生と小学校6年生が交流を深めました。小学生からは「先輩が優しく教えてくれた」「あんな先輩になりたい」などの感想があがっていました。



読書で子どもの世界をひろげましょう

読書の効用

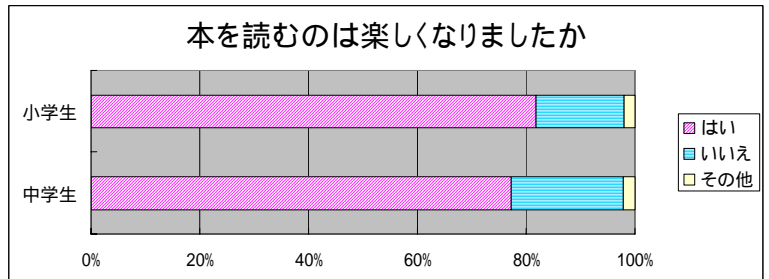
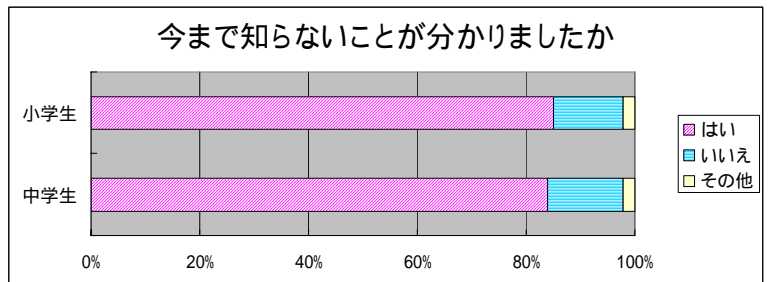
みなさんの家庭で、読書が話題になることがありますか？

学校読書調査によれば、「今まで知らないことが分かりましたか」という設問や「本を読むのは楽しくなりましたか」という設問に対し、約8割が「はい」と答えています。子どもたちは、読書の効用をよく知っています。

読書の楽しさを

そこで、家庭でも読書のきっかけを作ってみましょう。家庭で読み聞かせをしたり家族で同じ本を読んだり、本について話したりすることに取り組んでみませんか。家族で同じ時間、同じ空間を共有できれば、「活字を読む」という行為も、きっと楽しく取り組みます。また、どんな本を読めばよいか図書館司書に尋ねることも一つの方法です。

子どもたちの中には、本は苦手、字を読むのは嫌いという人がいると思います。本を読まなくても、これから先の人生、何も困らないかもしれません。でも、旅行に行ったり、スポーツをしたり、映画やテレビを見たり、ゲームをしたり、色々楽しいことをするなかの一つとして、本を読むことがその人の楽しみに加わったら、その人生はずっと豊かなものになるでしょう。



学校図書館協議会・毎日新聞社調べ

【私がすすめる読書の仕方】

久留米市立中央図書館 司書 臼井玲子



1 本の楽しさを伝えましょう

本を読む習慣がない場合、自分から本を手取ることは難しいかもしれません。そこで、保護者や先生、学校図書館司書などの身近な大人が、本の楽しさを伝えながら手渡してみることも大切なきっかけとなるかもしれません。

2 心に残る本との出会いを

絵本、読み物からノンフィクションまで、様々な本を手にとってほしいと思いますが、大切なことは読んだ冊数やジャンルの広さではなく、心に残る本に出会えるかどうかということではないでしょうか。本の世界を楽しむことによって想像力を豊かにしたり、新しい知識と出会える喜びを感じたりしてもらえたらと思います。

3 家族で読書タイムを

家族みんなで読書を楽しむ時間帯を作ってみるのはいかがでしょうか。家庭によって、一人一人の生活リズムが違うこともあるので難しいかもしれませんが、家族みんなで同じ本を読んだり、おすすめの本を紹介したりすると、家族での話題も増えるのではないのでしょうか。

久留米市教育委員会事務局 教育部総務・学校教育課

〒830-8520 久留米市城南町15番地3

TEL 0942-30-9213 FAX 0942-30-9719 E-mail:kyousou@city.kurume.fukuoka.jp